

記録
16ミリ
カラー／27分
日・中国語版

- 企画
中外製薬株式会社
- 監修
東京慈恵会医科大学
整形外科元主任教授
伊丹康人
- 学術指導(五十音順)
浜松医科大学教授
井上哲郎／大阪大学
歯学部教授 鈴木不
二男／新潟大学医学
部助教授 高橋栄明
／東京大学医学部教
授 尾形悦郎／昭和
大学歯学部教授 須
田立雄／神戸大学医
学部教授 藤田拓郎

スタッフ

- 製作
村山英世
- 脚本・演出
浅野 勲
- 撮影
山屋恵司
野崎嘉彦
- 解説
小林恭治

日本医師会推薦

骨粗鬆症は老化によるカルシウム代謝異常から起こる骨の疾患で、特に女性に多い。近年、活性型ビタミンDの骨形成作用が解明され、骨粗鬆症の治療に優れた効果を示すことが確認された。本作品は、この治療効果を基礎及び臨床の面から解説した学術映画である。



歳をとると背中が曲がってくる。これは骨粗鬆症(こつそしょうしょう)による背骨の圧迫骨折が原因である。疫学調査によると、骨粗鬆症は加齢と共に増え、特に農村の女性に多発する。その原因はカルシウムとビタミンDの不足に関連していることが明らかにされた。カルシウムは大部分が骨に含まれ体を支えると共に、そのごく一部は生命の維持に不可欠な役割を果たしている。そのため、血液中のカルシウム量は、たえず一定に保たれる必要がある。これを巧みに調節しているのがカルシウム調節ホルモンである。

老化すると、カルシウム摂取量が減り、カルシウム調節ホルモン、なかでも活性型ビタミンDの産生低下によって、腸管からのカルシウム吸収が減る。したがって、血液中のカルシウム量は下がり、これを補うために骨のカルシウムが溶かされていき、その厚みや量が失われていく。これが骨粗鬆症で、特に閉経後の女性では、エストロゲンの分泌が急速に低下するため、その進行が男性よりも速い。この症状が進むと骨はもろくなり、骨折しやすくなる。骨粗鬆症の治療としては、近年活性型ビタミンDが注目されている。その治療効果は動物実験の後、細胞レベルの実験でも骨形成への関与が証明され、臨床の場でも有効性が認められた。高齢化社会を迎えた今、活性型ビタミンDは、老人の健康管理の上で多くの可能性を秘めた薬物として、期待されている。